

オンラインという新大陸

文 佐渡島庸平

text by Yohsei Sadoshima

コロナによって、リモートワークを経験した人が増えたと思う。そして、Yahoo!は、なんと完全フルリモートを宣言した。Yahoo!のよくな大企業が、そのように舵を切ったことは、僕はすごいことだと思う。

僕が経営しているコルクでも、リモートワークを前提にしたオフィス移転を決定した。ベンチャー界隈では、同じような意思決定をした人が多い。

リアルか、オンラインか。それを二項対立で語る人が多い。そして、オンライン派に対して、リアル派は、五感を使ったコミュニケーションの大切さを説く。リアル派は、オンライン派が情緒的なものを軽視していて、人間を理解してないからだと考え

る。このような議論は、論点が全く噛み合っていない。オンライン派も、リアル派と同じように五感の大切さは分かっているし、情緒の重要さも分かっている。さらに、オンラインが、リアルよりも劣っていることも分かっている。それでも、オンラインを選択するのだ。

オンライン派は、アメリカ移民のようなものだ。ヨーロッパに住んでいる人たちが、新大陸・アメリカに移住した時、アメリカは、住みやすい国と

は言い難かった。そこへ行くまでの航海で死ぬ可能性も十分あったし、アメリカにたどり着いても、そこで待っているのは過酷すぎる暮らしだった。しかし、アメリカには可能性があった。そして、本当にアメリカは、新しいルールで建国された。アメリカに移住した人たちは、その時のアメリカに憧れたのではない。自分たちで、アメリカをいい国へとつくりあげる覚悟を持っていたのだ。

オンラインは、不十分だ。リアルの方がずっといい。でも、可能性に満ちている。たった数カ月で、一体いくつの新サービスが世界中で立ち上がったことだろう。そして、Zoomをはじめとしたテレビ会議は、いくつのアップデートを行ったことだろう。

リアルを改善していくことの限界はもう見えている。しかし、オンラインでの会議の改善は、まだまだ無限で、未知数だ。

自動的な議事録が作られるのは、誰でも思いつくだろう。そういった想像の範囲を超えるものがきつと出てくる。最近知った「ハイラブル」というシステムは、誰がどれくらい発言し、会話がどのように行われているかをリアルタイムで分析する。その分析を見ていると、発言の質が上がり、最高のファシリテーターがいる状態に自然になりやすいという。



Profile

株式会社コルク 代表取締役
2002年講談社入社。週刊モーニング編集部にて、「ドラゴン桜」(三田紀房)、「働きマン」(安野モヨコ)、「宇宙兄弟」(小山宙哉)などの編集を担当する。2012年講談社退社後、クリエイターのエージェント会社、コルクを創業。著名作家陣とエージェント契約を結び、作品編集、著作権管理、ファンコミュニティ形成・運営などを行う。従来の出版流通の形の先にあるインターネット時代のエンターテインメントのモデル構築を目指している。